

平成 22 年 3 月 2 日

相生山緑地の道路建設に係る学術検証委員会 御中

陳述書

相生山緑地自然観察会
近藤 記巳子

相生山緑地に夏鳥として渡来する野鳥「ヨタカ」について申し述べさせていただきます。

約 30 年前、相生山緑地周辺の人々は、子どもたちが遊びに出かけるときに「ヨタカが鳴いたら、うちへ帰ってくるのよ」と、声をかけて送り出したといひます。また女性たちは「ヨタカが鳴き始めたから、そろそろ帰って夕飯の支度を・・・」と、井戸端会議を切りあげて家路についたといひます。里山の生きもの「ヨタカ」と人が、寄り添って暮らしていた好例といえましよう。

裏面は「名古屋市の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブックなごや 2004 ー動物編ー」のヨタカのページです。下方の【現在の生息状況/減少の要因】の箇所の中ほどをご覧ください。「1994 年に天白区で繁殖が確認され、守山区、緑区、熱田区で生息が確認されたのを最後に 1999 年には、1975 年以来の一連の調査からの記録が消えた」とあります。「ヨタカ」は滅危惧 1A 類 (CR) にあげられています。これは危篤を表し、現状のまま推移した場合、10 年後の絶滅率が 50%以上といわれています。

私たち相生山緑地自然観察会のメンバーは、毎年 5 月にヒメボタルの観察会や調査を行っています。この時期は「ヨタカ」が「キョキョキョキョキョキョキョ・・・」と連続して長く鳴く声を耳にするのが常です。また街灯の周辺で昆虫を捕食する姿、あるいは木の枝で休んでいるシルエットを観察することもあります。

しかし現状はレッドデータブックが示すように、楽観できるものではありません。相生山緑地周辺在住の人々は「ヨタカ」の声を耳にすることが、大幅に減少したといひます。もし仮に、相生山緑地の道路建設により相生山緑地が分割されるならば、そこに生きる多種多様な動植物たちのつながりを断ち切ることになります。分割によって生態系が縮小すれば、「ヨタカ」の危機は加速度的に増すことでしょう。一度破壊された森は、二度と元にもどることはありません。

本年 10 月、生物多様性条約第 10 回締約国会議 (COP10) が開催されます。名古屋市は「生物多様性なごや戦略」を策定し、名古屋に残る自然に目を向け大切にする「身近な自然の保全・再生」を柱とすとうたっています。このなごや戦略には、心より賛同いたします。身近な自然は、「ヨタカ」をはじめとする生ものたちにとって重要な棲家です。そこは、私たち人間にとっても心地良い憩い場に違いありません。COP10 開催の年、COP10 開催の地、名古屋にふさわしい英断を、名古屋の将来、子どもたちの将来のために切に願ひます。私たち相生山緑地自然観察会のメンバーは、名古屋の緑の保護・保全により一層努めてまいります。

鳥類 <ヨタカ目 ヨタカ科>

ヨタカ *Caprimulgus indicus* Latham

鳥類

評価区分

名古屋市	絶滅危惧ⅠA類
愛知県	準絶滅危惧
全国	リスト外

【選定理由】

かつては夏期、市内各地に渡来し、鳴き声を聞く機会も少なくなかった。特に市東部（守山区～緑区）では夏期を通じて生息する地域も稀ではなく、繁殖確認の記録も散見されたが、近年著しく数が減り、市内で観察される機会は極めて稀になった。

【形態】

全長 28～30 cm。体は黒褐色～灰褐色の虫食い模様で、雄には外側尾羽の先端部に小さな白斑がある。翼は細長く先端が尖り気味で、尾は長め。嘴は外見上小さく扁平だが幅が大きく、大きく口を開くことができる。脚は短く歩行には適さない。

【分布の概要】

【市内の分布】

夏鳥として東部に広く渡来していたが、近年著しく減少した。

【県内の分布】

夏期、平野部～低山の林に生息し繁殖しているが、近年平野部では明らかに減少している。

【国内の分布】

九州以北に夏鳥として渡来し繁殖するが、各地で減少が伝えられる。

【世界の分布】

インド～中国～ウスリー地方などで繁殖し、高緯度のものは南下して越冬する。世界では特に減少の報告はない。

【生息地の環境／生態的特性】

平野部から低山帯の明るい林に生息する。県内での記録は4月～10月が主だが、11月の記録もある。日没後や夜明け前に林縁や草原上を飛び回り、大口をあけて昆虫類を捕食する。林内の地上に直接卵を産んで抱卵し、育雛する。細枝を脚ゆびでつかんで止まることは稀で、通常は横枝上に平行に、腹這い姿勢で止まる。夜間キョキョキョキョキョ…ときゅうりを刻むような声で鳴く。

【現在の生息状況／減少の要因】

1970年代頃までは守山区、千種区、昭和区、天白区など市東部で広く繁殖の報告があり、1979年には少なくとも市内3箇所でも繁殖していた。その後1994年に天白区で繁殖が確認され、守山区、緑区、熱田区で生息が確認されたのを最後に、1999年には、1975年以来の一連の調査からの記録が消えた。生息地である林と餌になる昆虫の減少が主な要因と考えられる。

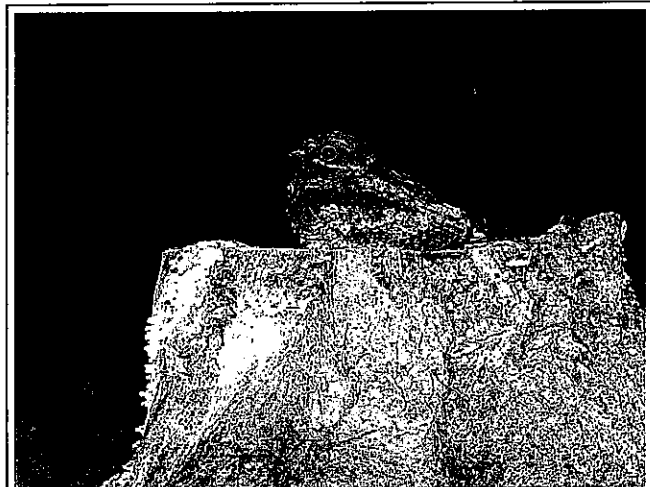
【保全上の留意点】

開発が進む都市部では難しいことだが、雑木林の保全が必要である。

【関連文献】

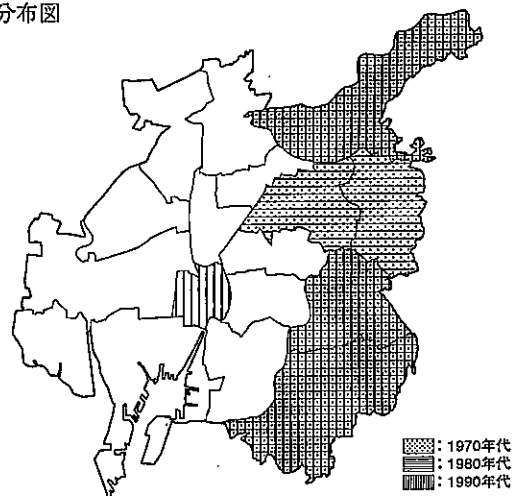
愛知 83:149、愛知 95:85、愛知 02:140、繁殖 78:218-219、HBW 5:359-360。

（執筆者 小笠原昭夫）



ヨタカ
天白区相生山、1985年10月9日、後藤弘行 撮影

市内分布図



EX
CR
EN
VU
NT
DD